

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

令和6年度病虫害発生予察情報について

このことについて、発生予報第10号（1月）を発表したので送付します。

鹿児島県病虫害防除所

〒899-3401
南さつま市金峰町大野 2200
TEL 099-245-1081 (代表)
099-245-1157 (直通)
099-245-1149 (FAX)

ホームページアドレス：<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>

メールアドレス：nousou-boujo@pref.kagoshima.lg.jp



農薬の安全使用に努めましょう

農薬安全使用五つの柱

1. 使用する人の安全 使用者自身の健康管理，安全使用
2. 作物に対する安全 適期，適正防除で薬害防止
3. 農産物に対する安全 消費者へ安全な農産物を供給
(農薬安全使用基準の遵守)
4. 環境に対する安全 周辺環境への影響防止
(周辺住民等への危被害防止)
(河川，湖沼，海等への汚染防止)
(養蚕，養蜂等への危被害防止)
5. 保管管理の安全 保管管理の徹底で事故防止

農薬ラベルを確認しましょう

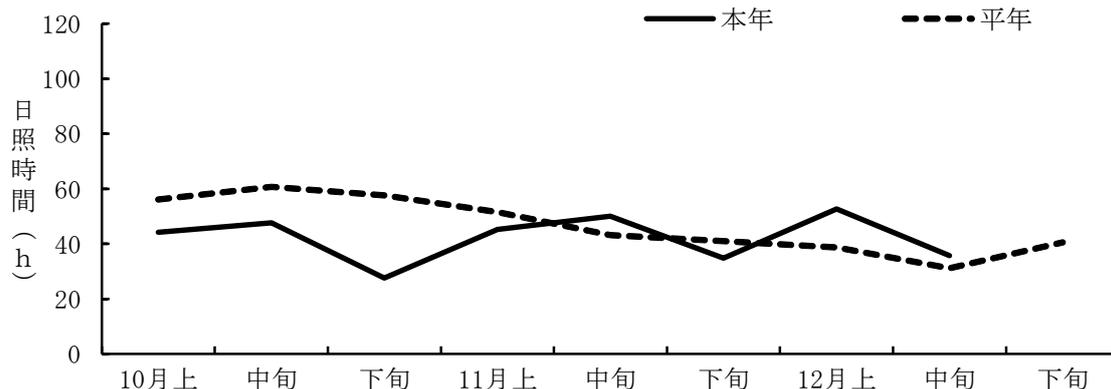
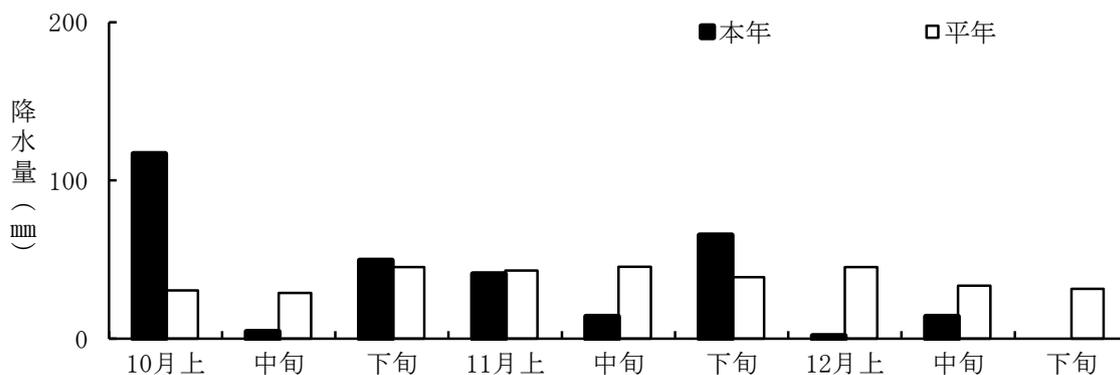
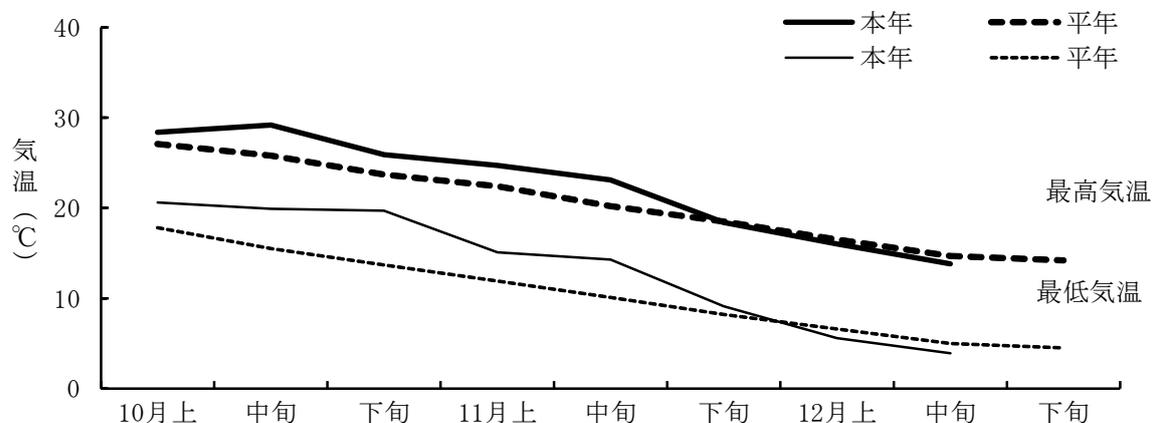
農薬の飛散（ドリフト）にも注意しましょう

【気象概況】

I. 向こう1か月の予報（12月21日から1月20日） 令和6年12月19日 鹿児島地方气象台 発表

要素	地域	確率（％）			概要
		低い(少ない)	平年並	高い(多い)	
気温	九州南部	50	40	10	両地方とも、気温は低く、日照時間はほぼ平年並。降水量は、九州南部が少なく、奄美地方は平年並みか少ない見込み。
	奄美地方	50	40	10	
降水量	九州南部	50	30	20	
	奄美地方	40	40	20	
日照時間	九州南部	30	30	40	
	奄美地方	40	30	30	

II. 10～12月の気象情報（鹿児島地方气象台 観測点：加世田）



【病害虫発生予報の概要】

作物		病害虫名	発生量	
			現況	予報
野 菜	キュウリ	退緑黄化病	多	多
		黄化えそ病	多	多
		コナジラミ類	多	多
		アザミウマ類	多	多
	トマト	うどんこ病	並	並
		コナジラミ類	多	多
	ピーマン	斑点病	やや多	やや多
		うどんこ病	少	少
		アザミウマ類	多	多
	イチゴ	うどんこ病	やや多	やや多
		アザミウマ類	並	並
		ハダニ類	並	並
キャベツ	菌核病	並	やや多	
エンドウ類	褐紋病・褐斑病	やや多	やや多	
	うどんこ病	並	並	
	アザミウマ類	並	並	
パレイショ	疫 病（熊本地域）	やや少	やや少	
	” （奄美地域）	多	多	
花 き	キ ク	ハダニ類（県本土（施設））	やや少	やや少
		アザミウマ類（県本土（施設））	並	並
		” （奄美地域（露地））	やや少	やや少

【 病 害 虫 発 生 予 報 】

I. 普通作物

防除に関する今月の留意事項



1. 水稲

(1) スクミリングガイ (令和6年度技術情報第20号, 11月29日付け 参照)

発生ほ場では、水田と水路内での越冬個体を減らすために、以下の防除対策を行う。

ア 2月までの冬期に、トラクターではほ場を耕耘(走行速度を遅く、ロータリーの回転は速くする)して、土壌中の貝を寒風にさらすとともに破碎する。

イ 水路内での越冬場所をなくし、越冬個体を寒風にさらすため、水路の泥上げを地域全体で行う。

2. サツマイモ

(1) サツマイモ基腐病

次作の発病リスクを軽減するために、以下の防除対策を徹底する。

<種いも伏せ込み>

ア 罹病した種いもが同一コンテナ内に混入すると、貯蔵中に健全な種いもへ伝染するため、定期的に種いもの状況を観察し、疑わしい種いもは必ず除去する。

イ 貯蔵前に種いも消毒を行っていない場合は、伏せ込む前に必ず種いも消毒を行う。また、病害発生いもや傷の多いいもなどの除去を徹底し、健全な種いものみを土壌消毒した苗床に伏せ込む。

<育苗床>

ア 消毒後は、耕耘を兼ねてガス抜きを十分に行う。

イ 育苗床では、萌芽の確認や育苗管理及び採苗作業で繰り返し出入りするなど、再汚染のリスクが極めて高いため、育苗床専用の長靴や手袋などを使用する。

ウ 萌芽した芽に変色やしおれ症状が見られた場合は、直ちに種いもごと抜き取り、ほ場外に持ち出して適切に処分する。また、萌芽せずに腐敗した種いもも掘り取り、同様に処分する。

サツマイモ基腐病の生態と防除に関する詳しい情報は、鹿児島県 (https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570_20240315133011-1.pdf), 農研機構 (https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/stem_blight_and_storage_tuber_rot_of_sweetpotator04.pdf) をご覧ください。



鹿児島県
サツマイモ基腐病防除
対策マニュアル(第4版)
令和6年3月改訂



農研機構
サツマイモ基腐病の
発生生態と防除対策
(令和4年度版)

II. 野 菜

1. キュウリ

(1) 退緑黄化病 (令和6年度技術情報第21号, 12月4日付け 参照)



ア 予報内容

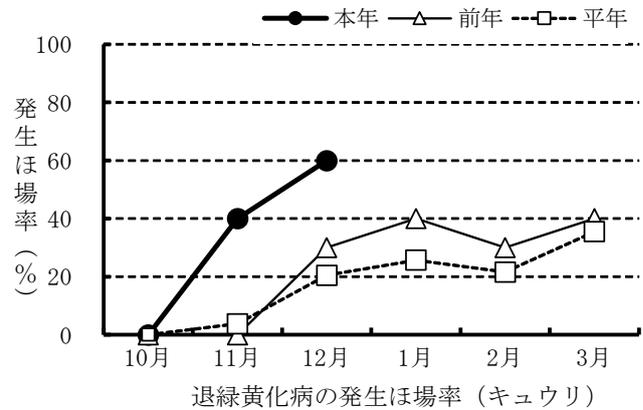
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率60% (平年21%)：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 病原ウイルス (CCYV) がコナジラミ類によって媒介されるため、コナジラミ類の防除を徹底する。
- (イ) 発病株は伝染源となるので、ほ場の見回りを行い、発病株を認めたら早急に抜き取り、処分する。



(2) 黄化えそ病 (令和6年度技術情報第21号, 12月4日付け 参照)



ア 予報内容

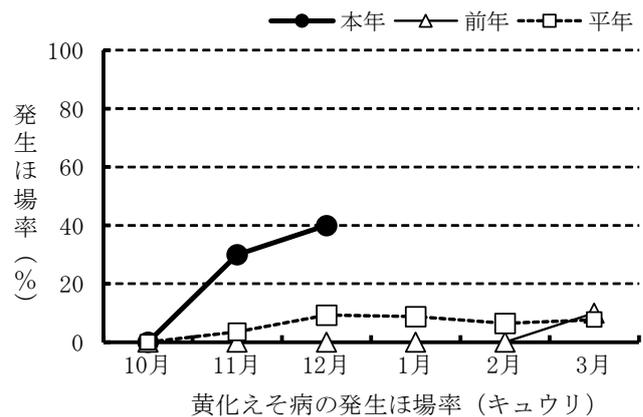
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率40% (平年9%)：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 病原ウイルス (MYSV) がアザミウマ類によって媒介されるため、アザミウマ類の防除を徹底する。
- (イ) 発病株は伝染源となるので、ほ場の見回りを行い、発病株を認めたら早急に抜き取り、処分する。



(3) コナジラミ類

ア 予報内容

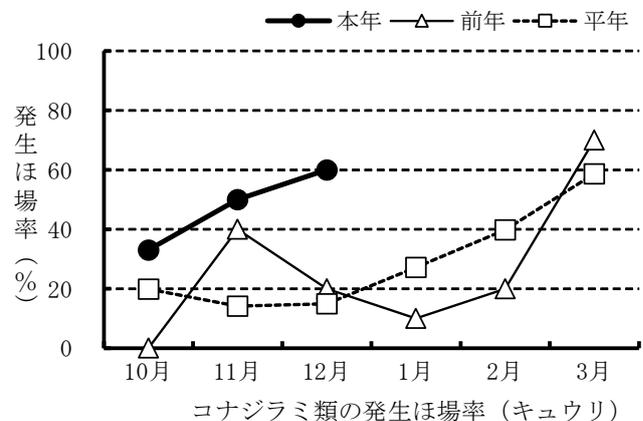
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率60% (平年15%)：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 黄色粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 天敵を導入しているほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (ウ) 作用性の異なる農薬 (RACコード参照) のローテーション散布に努める。



(4) アザミウマ類

ア 予報内容

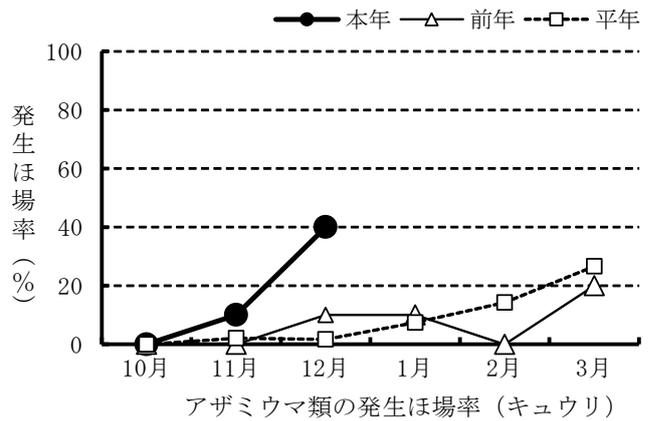
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率40%（平年2%）：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 青色粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 天敵を導入しているほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (ウ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布に努める。



2. トマト

(1) うどんこ病

ア 予報内容

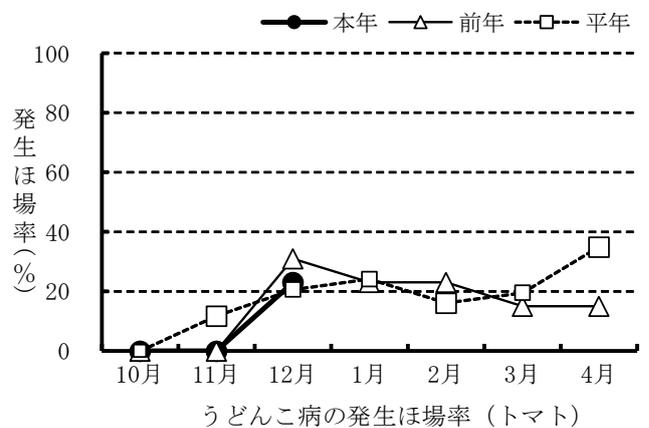
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率23%（平年20%）：並

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 発病葉は早めに除去し、施設から持ち出して処分する。
- (イ) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (ウ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布を行う。
- (エ) 成り疲れなど草勢が低下すると発生しやすいので、適正な肥培管理に努める。



(2) コナジラミ類

ア 予報内容

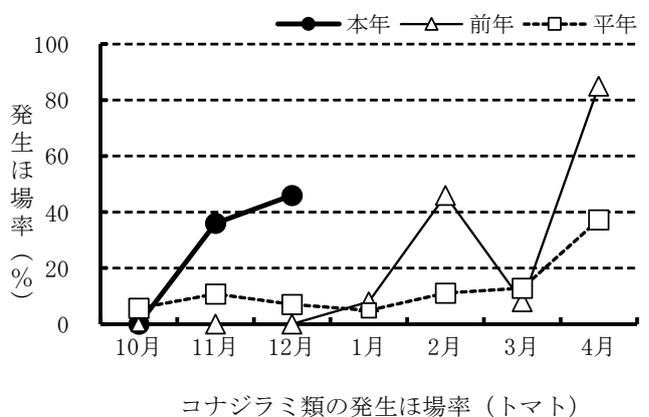
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率46%（平年7%）：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介する。黄色粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 天敵を導入しているほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (ウ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布に努める。
- (エ) 農薬によってはミツバチに影響があるので、選定に注意する。



3. ピーマン

(1) 斑点病

ア 予報内容

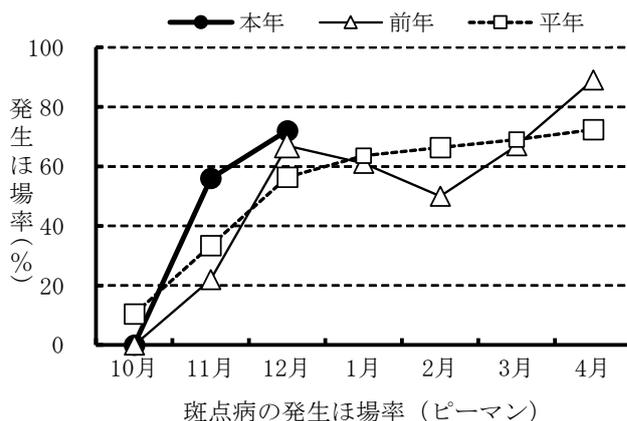
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率72%（平年56%）
：やや高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (イ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布を行う。
- (ウ) 成り疲れなど草勢が低下すると発生しやすいので、適正な肥培管理に努める。
- (エ) 多湿条件下で発生しやすいので、ハウス内の通風換気に努める。
- (オ) 発病葉はできるだけ持ち出して処分し、菌密度の低下を図る。



(2) うどんこ病

ア 予報内容

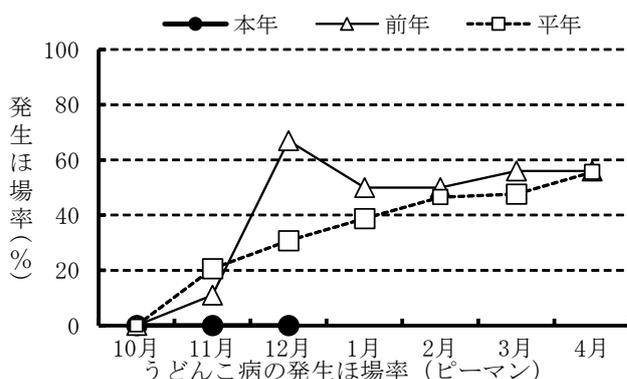
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 少

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：少
発生ほ場率0%（平年31%）：低い（-）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 成り疲れなど草勢が低下すると発生しやすいので、適正な肥培管理に努める。
- (イ) 発病葉は早めに除去し、施設から持ち出して処分する。
- (ウ) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (エ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布を行う。



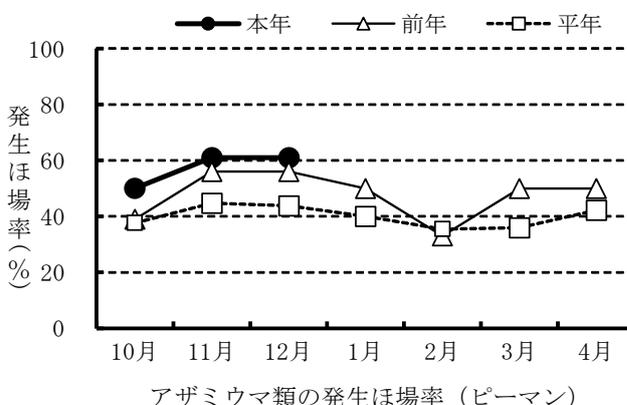
(3) アザミウマ類

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率61%（平年44%）
：やや高い（+）
発生程度の高いほ場を認めた（+）



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 12月の調査では、発生種はミナミキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマであった。ハウス開口部（サイド等）等に粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 花や新芽の中など薬液のかかりにくい場所に生息するので、散布は丁寧に行う。
- (ウ) 天敵を導入しているほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。また、多発したほ場ではリセットを考慮した防除を行う。
- (エ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布に努める。

4. イチゴ

(1) うどんこ病

ア 予報内容

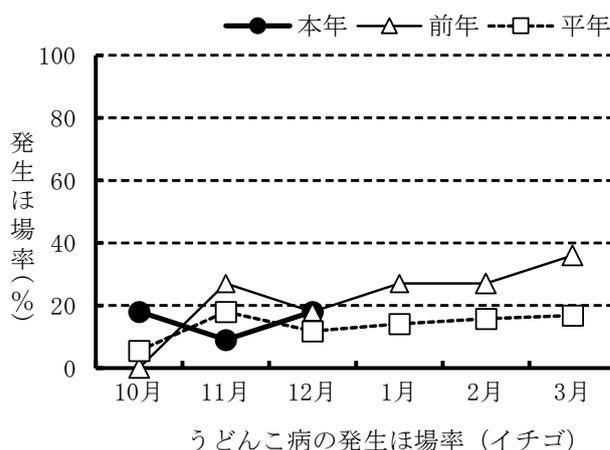
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率18%（平年12%）
：やや高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 成り疲れなど草勢が低下すると発生しやすいので、適正な肥培管理に努める。
- (イ) 発病葉は早めに除去し、施設から持ち出して処分する。
- (ウ) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (エ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布を行う。



(2) アザミウマ類

ア 予報内容

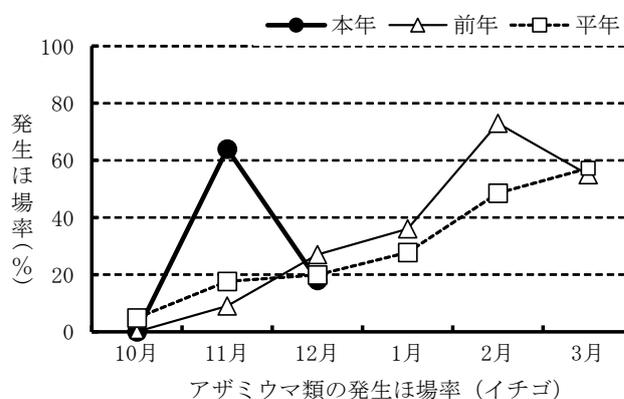
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率18%（平年20%）：並

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ハウス開口部等に粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 花や新芽の中など薬液のかかりにくい場所に生息するので、散布は丁寧に行う。
- (ウ) 天敵を導入しているほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (エ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布に努める。



(3) ハダニ類

ア 予報内容

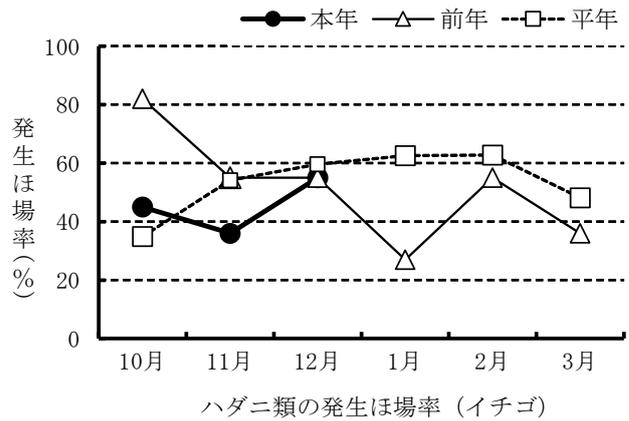
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率55%（平年59%）：並

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 天敵を導入しているほ場では，天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (イ) 農薬の防除効果が高めるため，下葉かきを行ってから葉裏にかかるよう散布する。
- (ウ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布に努める。
- (エ) 農薬によっては感受性が低下しているため，散布後は防除効果を確認する。
- (オ) 農薬によってはミツバチに影響があるので，選定に注意する。



5. キャベツ

(1) 菌核病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 春どり
- (ウ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

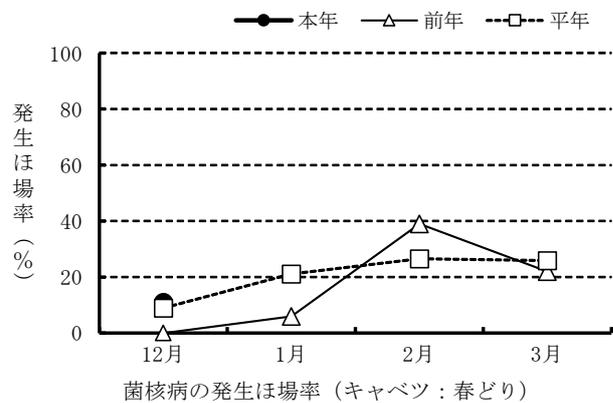
- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率11%（平年9%）：並

(イ) 気象予報

気温：低い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多湿条件で発生しやすいので，天候に注意し，予防散布に努める。
- (イ) 病原菌は地際部から感染しやすいので，農薬は株元へ十分かかるように散布する。
- (ウ) ほ場の見回りをを行い，早期発見に努める。
- (エ) 発病株は周辺株や次作の伝染源となる。発生が認められたら菌核を生じないうちにほ場外に持ち出し処分する。



6. エンドウ類

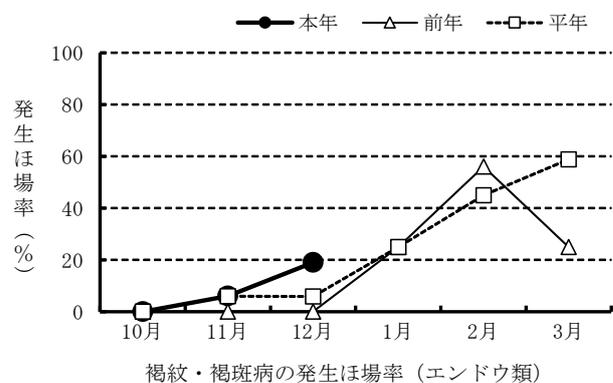
(1) 褐紋病・褐斑病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 冬・春どり
- (ウ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率19%（平年4%）：高い（+）
発生程度は低い（-）



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 排水不良のほ場では多発しやすいので、排水対策に努める。
- (イ) 未発生ほ場では予防散布に努め、既に発生しているほ場では早めに防除を行う。
- (ウ) 作用性の異なる農薬(RACコード参照)のローテーション散布を行う。

(2) うどんこ病

ア 予報内容

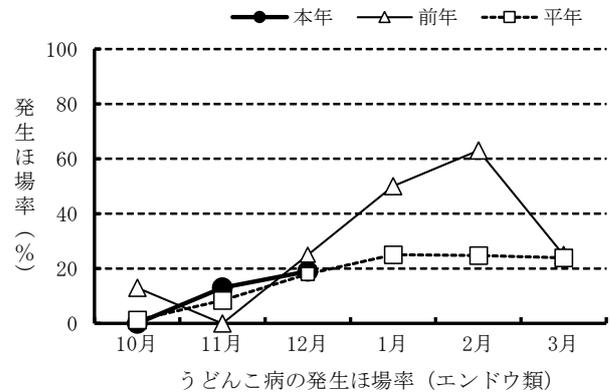
- (ア) 発生地域 県内全域
- (イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率19% (平年18%)：並

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) かん水不足や着莢負担等による草勢低下で発生しやすいため、適正な管理に努める。
- (イ) 多発するとごま症の発生につながるため、初期防除に努め、下位葉の葉裏まで農薬が十分かかるように散布する。
- (ウ) 既に多発しているほ場では5～7日おきに連続散布し、徹底した防除を行う。
- (エ) 作用性の異なる農薬(RACコード参照)のローテーション散布を行う。



(3) アザミウマ類

ア 予報内容

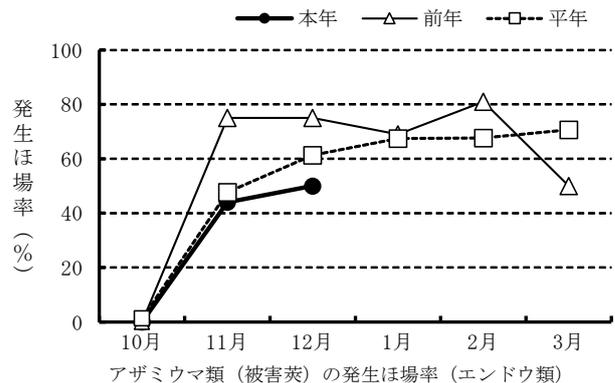
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率50% (平年61%)
：やや低い (-)
発生程度の高いほ場を認めた (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) アザミウマ類は花の子房部分に産卵し、「白ぶくれ莢」となるので、若莢の被害や青色粘着トラップへの誘殺から発生状況を把握し、初期防除に努める。
- (イ) 花卉の奥に生息するため、丁寧な農薬散布に努める。
- (ウ) 作用性の異なる農薬(RACコード参照)のローテーション散布を行う。



7. バレイシヨ

(1) 疫病

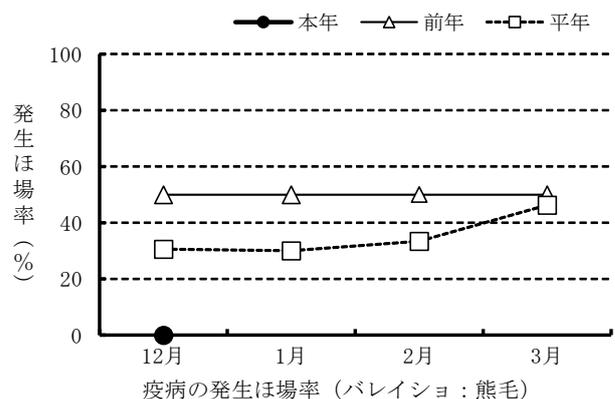
ア 予報内容

- (ア) 発生地域 熊毛地域, 奄美地域
- (イ) 発生量 熊毛地域：やや少
奄美地域：多

イ 予報の根拠

<熊毛地域>

- (ア) 調査結果 発生量：やや少
発生ほ場率0% (過去6年平均31%)
：やや低い (-)



<奄美地域>

(ア) 調査結果 発生量：多

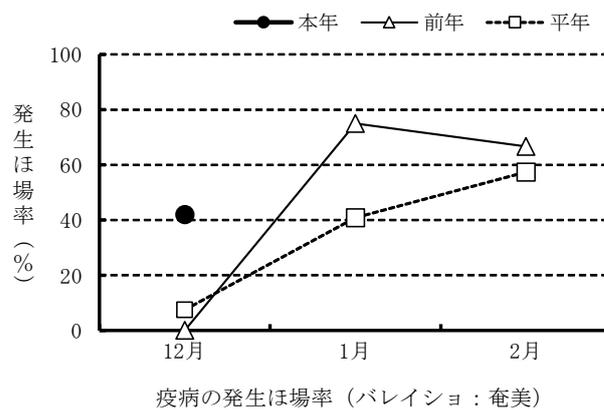
発生ほ場率42%（平年8%）：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 発病後は急速に病勢が拡大し、ほ場全体にまん延する。防除は予防散布に重点をおき、適期を逃さないように注意する。

(イ) ほ場の見回りを行い、発生が認められたら直ちに治療効果のある農薬の散布を行う。その後は、進展状況に応じて2週間後に追加散布を行う。

(ウ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布を行う。



Ⅲ. 花き

1. キク

(1) ハダニ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土（施設）

(イ) 発生量 やや少

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや少

発生ほ場率 20%（平年31%）

：やや低い（－）

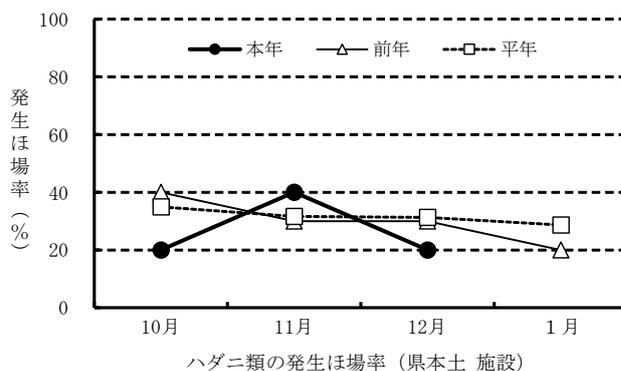
ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 出入口や前作での発生場所近く等でスポット状に発生するが多いため、ほ場全体をよく見回り、早期発見と早期防除に努める。

(イ) 薬液は葉裏までよくかかるように散布する。

(ウ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布を行う。

(エ) ほ場内及びその周辺の除草に努める。



(2) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土（施設） 並

奄美地域（露地） やや少

イ 予報の根拠

< 県本土（施設） >

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率 30%（平年32%）：並

< 奄美地域（露地） >

(ア) 調査結果 発生量：やや少

発生ほ場率20%（平年52%）

：やや低い（－）

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) アザミウマ類の発生動向を把握するには、出入口や開口部付近での青色粘着シートを設置が有効である。なお、クロゲハナアザミウマの誘引効率はやや低いと思われる。

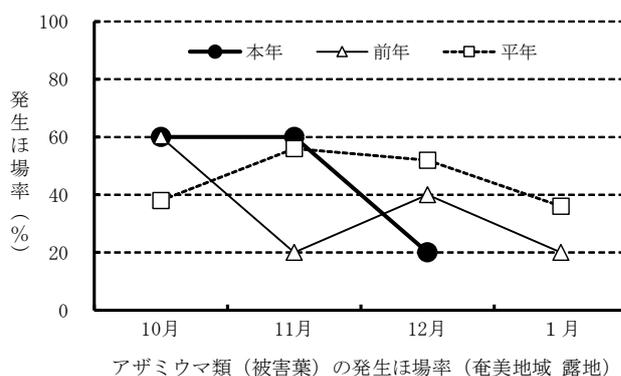
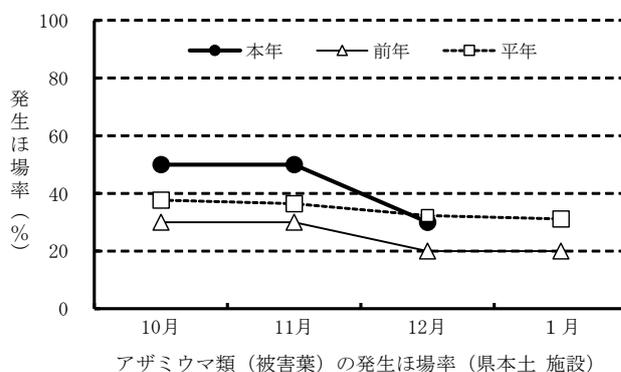
(イ) クロゲハナアザミウマは中下位葉に主に寄生しているため、よく観察して早期発見に努め、発生が認められた場合は、薬液が中下位葉の葉裏までかかるよう丁寧に散布する。

(ウ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布を行う。

(エ) アザミウマ類は、キクえそ病の病原ウイルス（TSWV）とキク茎えそ病の病原ウイルス（CSNV）を媒介するため、ほ場への侵入防止と早期発見及び早期防除に努める。

(オ) ほ場内及びその周辺の除草に努める。

(カ) 母株や苗は導入時に、アザミウマ類の寄生やウイルス病の発生がないか確認し、持ち込まないようにする。



農薬の適正使用について

農薬は以下の点に注意して適正に使用しましょう。

1. 使用前にラベルや説明書をよく読む。
決められた対象作物・使用時期・回数・使用濃度等を守り、記載された用途、方法以外では使用しない。
2. 使用する農薬にあわせて、適切な防除衣、保護具（マスク・手袋等）を着用する。
3. 散布前には防除器具の整備・点検をする。
4. 体調がすぐれないときは散布作業を避ける。
5. 散布時には農薬がほ場の外に飛散したり、流出したりしないよう十分注意する。
6. クロルピクリン剤は、住宅地及び畜舎に隣接するほ場や、土壌が乾燥しているときは使用しない。注入後は直ちに穴をふさぎポリエチレンフィルム等で10日以上被覆する。
7. 毒性が強い農薬は、施設内や噴霧のこもりやすい場所では使用しない。
8. 使用期限の切れた農薬、不要になった農薬及び使用済みの空容器は適正に処分する。
9. 農薬は食品と区別し、鍵をかけて保管する。
10. 農薬の散布記録をつけておく。

「予報の根拠」の記載方法

- 調査結果の発生量は、前月の巡回及び定点調査による。
- 野菜類共通病害虫の発生量は、各作物での発生量やトラップ調査結果等に基づいた総合評価。
- 調査結果や気象予報等の末尾の（+）、（-）は、発生量の増加、減少要因を示す。
- 気象予報は、向こう1か月の長期予報。
- 平年値は原則として過去10年間の平均値を用いている。